

3 週間ぶりにヨセフの生涯にもどります。

1. ヤコブは息子達をエジプトに派遣 (1～5 節)

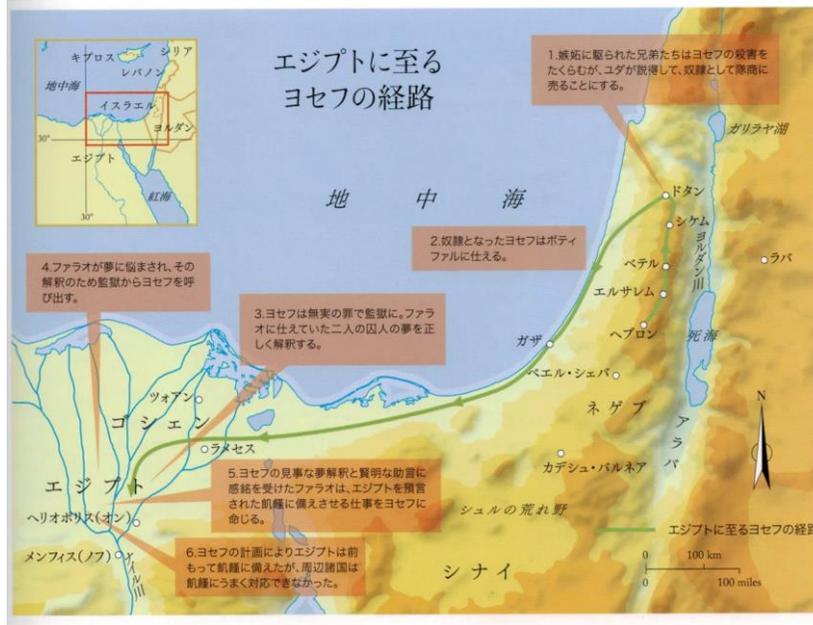
①エジプトで穀物を (1～2) 「**ヤコブはエジプトに穀物があることを知って、息子たちに言った。『あなたがたは、なぜ互いに顔を見合っているのか。』**そして言った。『**今、私はエジプトに穀物があるということを知った。あなたがたは、そこへ下って行き、そこから私たちのために穀物を買ってきなさい。そうすれば、私たちは生きながらえ、死なないだろう。』**」ヤコブは一家の長として、民の食糧問題が切実であることを見て、息子達をエジプトに向かわせようとした。エジプトには食糧が豊かに確保されていることを聞きつけたからです。民が生き続けるために、ヤコブが真剣なのに比して、子供達は自分達で対策を立てる様子もなく、お父さん任せでした。

②十人の兄弟たち (3～4) 「**そこで、ヨセフの十人の兄弟はエジプトで穀物を買うために、下って行った。しかし、ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄弟たちといっしょにやらなかった。わざわざ彼にふりかかるといけないと思ったからである。**」一家の長である父親に命ぜられると、重い腰をあげてエジプトに向かった 10 人の息子達。エジプトは自分たちが売り払ったヨセフがいる所ですから、できれば行きたくない地であったことでしょう。一方、ヤコブはベニヤミンを離しませんでした。かつてヨセフを失い、ラケルとの間に生まれもう一人の子ベニヤミンを失うわけにはいかなかったからです。

③カナンも飢饉に (5) 「**こうして、イスラエルの息子たちは、穀物を買うに行く人々に交じって出かけた。カナンの地にききんがあったからである。**」すでにイスラエルと改名しているのですから、創世記もそちらの名前をここでは記述しています。「穀物を買うに行く人々に交じって出かけた」とは、食糧調達に多くの民がエジプトに向かったことが示されています。飢饉は広い範囲の民を苦しめていたのです。

2. ヨセフは兄弟たちに難題を (6～13 節)

①ヨセフと兄弟達(6～8) 「**ときに、ヨセフはこの国の権力者であり、この国のすべての人々に穀物売る者であった。ヨセフの兄弟たちは来て、彼を地につけて彼を伏し拝んだ。ヨセフは兄弟たちを見て、それとわかったが、彼らに対して見知らぬ者のようにふるまい、荒々しいことばで彼らに言った。『あなたがたは、どこから来たのか。』**すると彼らは答えた。『**カナンの地から食糧を買いにまいりました。』**ヨセフには、兄弟たちだとわかったが、彼らにはヨセフだとはわからなかった。」エジプトに到着した兄達ですが、その国の総理大臣に面接して食糧交渉をします。しかし、10 人の兄弟たちは、目の前の権力者が弟のヨセフだとは全く気づきません。彼らは、宰相の前にひ



ざまずくばかりでした。それは、かつてヨセフが見た二つの夢の実現でありました。一方のヨセフは一考して、兄たちに厳しい態度をとります。

②問者だ (9~11)「**ヨセフはかつて彼らについて見た夢を思い出して、彼らに言った。『あなたがたは問者だ。この国のききをうかがいに来たのだろう。』**彼らは言った。『いいえ。あなたさま。しもべどもは食糧を買いにまいったのでございます。私たちはみな、同じひとりの子で、私たちは正直者でございます。しもべどもは問者ではありません。』食糧を買いに来た兄達に対し、ヨセフは彼らを問者だと責め立てたのです。兄達はかけられた嫌疑にびっくりしました。とんでもありません。自分たちがカナンから来た者たちで、問者ではなく、食糧を買うために来たのです、と強調するばかりでした。

③ひとりの人の子 (12~13)「**ヨセフは彼らに言った。『いや。あなたがたは、この国のすきをうかがいにやって来たのだ。』**彼らは言った。『しもべどもは十二人の兄弟で、カナンの地にいるひとりの人の子でございます。末の弟は今、父といっしょにいますが、もうひとりはいなくなりました。』エジプトの国のすきをうかがいにきたスパイだと、言い放つヨセフに対し、兄弟達は必死に自分たちの素性を伝えます。カナンの地の真面目なひとりの人 (ヤコブ) の息子達です。

### 3. 問者だと言われ (14~17 節)

①末の弟を (14~15)「**ヨセフは彼らに言った。『私が言ったとおりだ。あなたがたは問者だ。このことで、あなたがたをためそう。パロのいのちにかけて言うが、あなたがたの末の弟がここに来ないかぎり、決してここから出ることはできない。』**ヨセフは後に引きません。問者だと決めつけ、「パロのいのちにかけて」とまで言って、彼らの末弟を連れてくるようにと言うのです。

②誠実かどうか (16)「**あなたがたのうちのひとりをやって、弟を連れてきなさい。それまではあなたがたを監禁しておく。あなたがたが誠実であるかどうか、あなたがたの言ったことをためすためだ。もしそうでなかったら、パロのいのちにかけて言うが、あなたがたはやっぱり問者だ。』**10 人の内の一人を使いに行って、末弟を連れてくることを命じ、それまでは他の兄弟たちは人質として監禁するという内容でした。それを誠実に行わないなら、あなたがたは問者だ、とまで言いました。この 10 人の内の一人という条件は、この後を見ると、10 人の内 9 人となり、一人が人質となります。

③監禁所に (17)「**こうしてヨセフは彼らを三日間、監禁所にいっしょに入れておいた。**」彼らがこのことで考える期間は三日間。ヤコブの兄弟たちは監禁所に入れられました。かつて、ヨセフが二年間、監禁されていたことの一端を彼らは味わわねばならなかったのです。

### 《結論》

ヨセフがカナンの地において、父ヤコブに愛され過ぎ、二つの夢 (兄弟たちの東のお辞儀、11 の星がヨセフを拝む) を見たのが、17 歳の時 (37:2)。兄達に売られてエジプトに来てから様々なことがあり、ついには総理大臣になったのが 30 歳 (41:46)。パロが見た夢の通りに、豊作期間が 7 年あって後に飢饉が始まり、諸国から豊富に備蓄するエジプトに、穀物を求めに来るようになりました。ヨセフにとってはカナンの家族のもとを離れて、20 年もの月日がなっていました。

そして今、確かにそれなりに年は取りましたが、兄達が目の前にいます。その胸中は複雑だったでしょう。あの兄弟達に売られて、言葉もわからない地にやって来て、経験した苦労を思えば、怒りや恨みなどもあったでしょう。しかし、もう一方では懐かしさから、すぐにでも名乗り出て、再会の喜びを分かち合いたいとも思ったでしょう。ところが、ヨセフがとった行動は、少し意地悪とも思えるようなものでした。兄弟を問者だとして、彼らの末弟を連れてこなければならぬとしたのです。

どうして、ヨセフはこのような行動に出たのでしょうか。信仰心の篤いヨセフの内にとどのような導きがあったのでしょうか。

まず、ヨセフはこの時点において、誰よりも深く神の壮大なご計画というものを理解し始めていたことでしょう。17 歳の時の夢が、目の前で実現しているのですから、見えない神の大いなる御手をひしひしと感じたことでしょう。人間の考えをはるかに越えて、エジプトに導かれてきたことの意味も少しずつわかり始めていた事でしょう。そう考えると、これは単に兄弟が再会したという問題ではないと考えさせられたでしょう。神はこのことを通して、何を教え、何をなそうとされているのだろうかと考えたことでしょう。それに、兄弟間の確執のことも、新約聖書的にいえば人間の罪の問題を、もっと掘り下げなくてはならないと受け取らされたのです。つまり、「再会できて、良かった、良かった。」で済ませてしまっただけではならなかったのです。そして、これらのことは、ここにはない父ヤコブや弟のベニヤミンもとも、神の御前にもともに出なくてはならないと思えたのです。そこで、まずはベニヤミンを連れてくるように兄弟達に命じたのです。

私たちの歩みにおいても、課せられている問題について、人間的に折り合いをつけるという方法では済まされないこともあります。それらを主の前で、導いていただくことが大切なのです。そこにこそ、神の大いなる愛の御手を学ぶことができるからです。神の恵みを知ってこそ、信仰者の喜びは増し加わるのです。ヨセフが時間をかけて取り組もうとしたように、私たちの問題も時間が必要かもしれません。そして「神のみこころは何か。何が良いことで、神に受け入れられるか」(ローマ 12:2) を主の前に教えていただきたいのです。私たちが祈りにおいて、心の奥

底にある根本問題を差し出し、主を知っていくことができますように。